

彙 報

第 48 回日本言語学会大会

東京外国語大学において昭和 38 年 5 月 18 日公開講演会・会員総会, 5 月 19 日研究発表会を開催。

1. 公開講演会:

- | | |
|---|--------|
| 国際語について | 神保 格氏 |
| Syntax についての二・三の考察 | 佐々木 達氏 |
| Aufgaben und Methoden der Türkischen Philologie | |
| A. von Gabain 女史, 村山 七郎氏 通訳 | |

2. 会員総会: 昭和 37 年度会計報告(別記)及び昭和 38・39 年度委員の選挙結果・事務分担に関する報告を承認, 「アジア・アフリカ言語文化研究センター設立に関する要望書」(79 頁参照)を文部省関係当局へ提出することを決議。

3. 研究発表会

- | | |
|--|---------|
| 1) 韻鏡第一・第二兩転の「開・合」について | 平山 久雄氏 |
| 2) 日本語の語頭の s の源流について
(「国語研究」第 16 号参照) | 小沢 重男氏 |
| 3) 現代日本語の従属句の分類 | 南 不二男氏 |
| 4) オロン・スメ出土シリア文字碑文の解読 | 村山 七郎氏 |
| 5) 日本語母音の周波数分析にみられる個人差 | 和山 和儀氏 |
| 6) セム語における «x の親», «y の子」という
表現について | 矢島 文夫氏 |
| 7) イスパニア語重母音 -ie, -ue と子音延長 | 近松 洋男氏 |
| 8) A Discovered New Form in A.S. | 小林 智賀平氏 |
| 9) 存在と措定との表現について——ヨーロッパ語法と
日本語法との対照比較を試みる—— | 佐久間 鼎氏 |

第 17 回九学会連合大会

5 月 25・26 日上野公園国立博物館において開催。本学会よりの発表者は:

- | | |
|----------------------------|--------|
| 共同課題 1. 「日本の地域性」
言語の地域性 | 徳川 宗賢氏 |
| 共同課題 2. 「日本の美」
日本語の美 | 榎 垣 実氏 |

昭和 37 年度第 5 回委員会

日時：昭和 38 年 2 月 21 日 17:00—19:00

場所：学士会館本郷分館

出席者：（ ）内数字は委任状受託数

泉井久之助(4), 北村 甫, 金田一春彦, 高津春繁, 河野六郎(2), 小林智賀平,
鈴木孝夫, 徳永康元(1), 野上素一, 服部四郎(3), 前田護郎, 三根谷徹, 村山
七郎, 山本謙吾。 (委員総数 37 名)

議決事項：

1. 委員の改選について、「委員の選挙方法」(78 頁参照)を審議・決議し、昭和 38・39 年度新委員候補者を選定した。
2. 第 48 回大会に関して、日程・公開講演会講演者を決定、大会運営委員長を徳永康元氏に委嘱した。
3. 九学会連合昭和 38 年度の事業計画について金田一春彦氏より報告があり、昭和 38 年度連合大会での本会からの発表者を決定、次いで昭和 38 年度の共同調査(下北半島)に本会からは柴田武氏、池上二良氏、日野資純氏の三氏を派遣することを決定した。

選挙管理委員会

日時：昭和 38 年 3 月 20 日

場所：日本言語学会事務室

事業内容：昭和 38・39 年度委員選挙の開票を行い、新委員が決定した。新委員の氏名については表紙 2 頁参照。

昭和 38 年度第 1 回委員会

日時：昭和 38 年 4 月 8 日 17:00—21:00

場所：学士会館本郷分館

出席者：（ ）内は委任状受託数

浅井恵倫, 池上二良, 泉井久之助(4), 亀井 孝(1), 北村 甫, 金田一春彦(1),
河野六郎(1), 小林智賀平, 徳永康元(1), 服部四郎(5), 前田護郎, 三根谷徹(1),
村山七郎(1), 山本謙吾。 (委員総数 37 名)

議決事項： -

1. 昭和 38・39 年度新委員による委員長及び編集委員長選挙の開票を行い、次いで新委員の事務分担を下記(76 頁)の如く決定。
2. 第 48 回日本言語学会大会の日程細目を決定、研究発表会発表者を選定。

昭和 38 年度第 2 回委員会

日時：昭和 38 年 5 月 18 日 12:00—14:00

場所：東京外国語大学

出席者：（ ）内は委任状受託数

池上二良, 亀井 孝, 北村 甫, 金田一春彦, 高津春繁(1), 河野六郎(1), 小林智賀平, 小林英夫, 柴田 武, 関本 至, 徳永康元, 長谷川松治, 服部四郎(3), 村山七郎, 山本謙吾。 白紙委任状 3 (委員総数 37)

議決事項:

1. 第 48 回大会の運営について委員の役割分担を決定。
2. 会員総会の議題について審議し, 次項を議題として追加することを決定。
3. アジア・アフリカ言語文化研究センター設立に関し, 要望書について総会の承認を得た上, 文部省関係当局宛提出する。
4. 昭和 38 年度秋季大会(第 49 回)開催候補地として次の順序におねがいます。(1) 福岡または太宰府(吉町義雄氏) (2) 岡山(江実氏) (3) 広島(関本至氏)。(なお, 吉町義雄氏の昭和 38 年 7 月 16 日附書簡により, 九州大学にて開催することを了承する旨回答あり, 11 月 9・10 両日に決定)

◇昭和 38・39 年度委員の事務分担

委員長: 服部四郎

編集委員長: 河野六郎

刊行委員

編集委員: 泉井久之助, 亀井 孝, 木村彰一, 高津春繁, 服部四郎, 三根谷徹

出版委員: 高津春繁, 北村 甫

会計委員: 泉井久之助, 徳永康元

九学会連合委員: 浅井憲倫, 金田一春彦

東洋学連絡委員: 泉井久之助

文部省科学研究費審議会委員: 柴田 武

日本学会協議選挙管理会委員: 木村彰一

文科系学会連合委員: 木村彰一, 前田護郎

委員の選挙方法

委員の選挙は選挙管理委員会が管理する。

選挙管理委員会は、本会委員会の議決により推薦された候補者名を連記した投票用紙を全会員(団体会員を除く)に配布する。

会員は、自分の不適任と認める候補者がある時は、その名の上に×印を記入し、新たに候補者として推薦しようとする会員があれば、その名を書き加えて、無記名投票する。

本会委員会の推薦した候補者のうち、全会員(同上)数の5分の1以上の×を得た候補者は落選、他は当選とする。

会員により新たに推薦された候補者のうち、全会員(同上)数の10分の1以上の票数を得た者は、当選とする。同じく20分の1以上の票数を得た候補者については、委員会における議決に基づき、会長・副会長・評議員会の承認を経て、当選と認めることがある。

選挙管理委員会は評議員及び幹事によって構成する。

上の規約は、昭和37年度第5回委員会(昭和38年2月21日開催)において決定し、会長、副会長、全評議員の承認を得て、昭和38年3月15日附発効したものである。

アジア・アフリカ言語文化研究センター設立に関する要望書

聞く所によれば、文部省当局は日本学術会議の勧告に基づき、アジア・アフリカ言語文化研究センター設置を企画しつつあり、その準備工作として今回ヨーロッパ各国におけるアジア及びアフリカの諸言語の研究機関の実情を調査するため調査団を派遣したという。日本言語学会は学術会議勧告の趣旨に全面的に賛成し、その速かなる実現を強く望むと共に、その設立に協力を惜しまないものである。

日本言語学会としてはアジア・アフリカ言語文化研究センターの設立に際し次の点につき要望する。

- (一) 研究センターは独立の国立機関であることが望ましい。
- (二) その機関は全国の研究者の共同利用の場であるべきである。
- (三) その運営は能う限り流動研究体制をとるよう配慮すべきである。
- (四) 研究センターは言語の科学的な研究の基礎の上に立って実用的にも有効な事業を行うべきである。その事業については次の諸点に留意すべきである。
 - (イ) 未開拓な言語領域の専門家を多数急速に養成すること。そのため、センターにおいて基礎的言語学的訓練を施した後、現地及び諸外国に派遣してその言語の習熟を計らしめること。
 - (ロ) センターに専門家養成に必要な最新の設備を設けること。
 - (ハ) 未開拓な言語領域について辞典・文典・教科書・百科辞典等の参考書を編纂し、且つ之を公刊すること。現下の国内印刷事情に鑑み、センターはそれ自身の印刷所を持つ必要がある。
- (ニ) これらの参考書の編纂及び専門家の養成には言語学者のみならず各領域の社会・民族・歴史・法制・経済その他の分野の学者の協力が必要であること。
- (ホ) 研究センターは国の内外の研究者並びに研究機関と密接に連絡を保ち、情報を収集または提供すること。

以上の如き配慮を以てアジア・アフリカ言語文化研究センターの急速な設立を日本言語学会会員全体の意向として要望する次第である。

昭和 38 年 5 月 18 日

日本言語学会会長 新 村 出

文部大臣 荒木万寿夫殿

~~~~~

## 昭和 37 年度会計報告

|        |         |          |         |
|--------|---------|----------|---------|
| 前年度繰越金 | -38,154 | 刊行経費     | 334,782 |
| 会費(現金) | 165,160 | 送送料      | 38,025  |
| ”(振替)  | 262,561 | 大会講演会費   | 28,145  |
| 雑誌売上金  | 35,431  | 通信費      | 39,485  |
| 補助金    | 70,000  | 事務用品費    | 11,440  |
| 寄附金    | 10,000  | 九学会分担金   | 5,000   |
| 利息     | 1,070   | 文科系学会連合費 | 3,000   |
|        |         | 雑費       | 36,442  |
| 計      | 506,068 |          | 496,319 |

差引残高 9,749